

専門科目履修モデル4 「言語コースで日本語について研究する」

学年	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	取得単位	卒業必要単位数	
必修科目	大学での国語力	2	日本語史A・B	4			卒業論文	8	30単位	30単位	
	日本文芸学概論A・B	4	日本文法論A・B	4							
	日本語学概論A・B	4	日本文芸史I A・B	4							
選択必修科目	ゼミ		日本文芸研究ゼミナール	4	日本文芸研究ゼミナール	4			8単位	8単位	合計 38 単位 以上
	特講	(8)言語A・B	4	(3)中世A・B	4	(14)沖縄文芸A・B	4		24単位	24単位 以上32 単位以下	
		(4)近世A・B	4	(5)近代A・B	4	(15)国際日本学A・B	4				
選択科目	ゼミナール入門	2	古文・漢文の基礎	2	言語心理学	2			12単位		
			言語学演習	4	日本語学特殊研究A・B	4					
コメント	<p>「日本文芸学概論」と「日本語学概論」は、3年次までに履修しないと4年次に進級できない、基礎的・包括的な科目です。1年次の秋に行われるゼミ選抜のためにも、1年次のうちに履修しましょう。選択必修科目の「特講」は、8単位まで履修できます。言語コースへ進む予定なら、(8)言語は1年次で履修しておきましょう。また、古語についての知識も日本語を研究する上で大変役に立つので、比較的なじみのある近世あたりを履修しておくともよいでしょう。もっと本格的な古語を学びたいなら中世や古代を履修するのもよいでしょう。</p>		<p>2年次からは、選択必修科目のゼミナールが始まります。言語コースに所属すると、「日本文芸史I A・B」以外に「日本語史A・B」と「日本文法論A・B」が2年次からの必修科目となります。履修しないと卒業できない科目なので、2年次のうちに履修しておきましょう。選択必修科目の「特講」については、古語を専門的に研究したい人は古代・中世・近世など、現代語を中心に研究したい人は表現・国際日本学などがよいでしょう。古典文法は現代語を研究する際にも役立つので、「古文・漢文の基礎」もお勧めです。</p>		<p>3年次は、ゼミナールでの学習も2年目となるため、後輩の2年生を指導することも期待されます。視野を広げつつ、さらに深く学ぶようにしましょう。特講の沖縄文芸や国際日本学で視野を広げ、選択必修の言語心理学や日本語学特殊研究でより深く掘り下げた知識を身につけるとよいでしょう。秋学期には、卒業論文で取り上げたいテーマが徐々に固まって来る人もいます。先生が言ったことを覚えるだけの勉強ではなく、研究の方法を学ぶことが大切です。概説書ではなく、専門誌に掲載された論文を読むようにしましょう。</p>		<p>4年次は、卒業論文に取り組みます。研究の進捗状況を定期的に指導教員へ報告するだけでなく、積極的にアポイントをとって面談してもらい、アドバイスを受けるようにして下さい。卒論は、これまで培った調査力・思考力・表現力などを結集する、学業の総決算です。卒論の作成によって、8単位を取得することになります。(3年次末の時点で、ゼミナールの単位が0の場合は、4年次に進級することはできません。)4年次までに、卒業に必要な単位を満たしていれば、4年次には、学んでおきたい科目を比較的自由に履修できます。</p>		<p>日文科の専門科目では、上に挙げた必修科目と選択必修科目、選択科目以外に自由科目を8単位以上履修する必要がありますが、取得単位で注意しなくてはならないのは総単位数です。必修科目や選択必修科目等の必要単位数を満たしていても、総単位数で卒業必要単位数を満たしていないことがあります。「～単位以上」となっている科目に気をつけて、とくに4年次には必要単位数だけでなく、総単位数に注意して履修してください。</p>		

学部専門科目は、1, 2年次の履修上限が42単位なので、ここに記載されている2年次の科目をすべて2年次のうちに履修できるわけではありません。上限を超える場合は、3年次に履修してください。